

作文の指導

平成二十八年八月

一 指導に当たって

この教式では、誰でも作文が書ける子に、作文を書くことが好きな子になることを目指しています。題材については、随意選題、今風に言えば、自由作文を基本としています。つまり、課題を与えず、書きたいことを自由に書かせる指導方法です。その書いた作文から、良さを探します。そこを認め、ほめます。書いた子どもの良さを取り上げれば、自分にもそういう良さがあつたかと気付いて、自信がつかます。書くことも好きになります。ところで、自由に書いた作文には、その子どもの生活が現れます。そこには、身の回りの たぐさんの人々が登場します。そこには、友だちの良さ、家族の良さ、兄弟の良さ、先輩の良さ、チームの良さ、地域の良さなど、その時の題材次第で、気付けなかつた良さ、あたりの良さがあります。これまで、あまり意識して来なかつた良さを、はつきりと意識させてあげるので、そうしますと、子どもは、自分がそういう周りの人々の良さに守られていることにも気付きます。そして、穏やかで、豊かな気持ちになります。良いものを素直に認める気持ちになります。今、何かと厳しい環境に置かれることの多い子どもたちにとても合う指導方法ではないかと思うのです。子どもは自分の気持ちがゆつたりとなる時間を設けるももちろん、そのためには、子どもの作文を丹念に読むことが大切になります。時間もかかります。ですから、この教式では、コメントを書いたり、誤りを朱筆で丹念に訂正するということをしません。コメントを書く代わりに、修正の時間に話してあげます。言語事項の誤りは、記述や批正の一斉指導で行ったり、記号を決めておいて、自分で直させたりします。

次に、では、どのような手順で作文を書かせるかということについて述べます。

二 記述

(作文を書く時間)

1 文話

子どもたちの書いた作文から、良かった点をさらに伸ばすように働きかけたり、短所(誤りは一回の作文では、一個くらいに絞って)は、気を付けて書くことを促します。

2 文題

書きたい文題を聞きます。

これは、書きたいなあという気持ちをかきたてたり、こんなことも書けるんだなあという気持ちにさせるための作業です。ですから、「どんなことを書くのかな?面白そうだね。読みたいねえ。」などと、働きかけます。こういうことを、七、八人すると、書きたいなあと言う気持ちが固まつてくるようです。その日、書けない子どもがいても、無理はせずに待ちます。

子どもの力によまかせの『

3 記述

教師は教卓のそばに立ち、じつと子どもたちの書く姿を見守ります。このことを、先師は、沢庵石になると言いました。この頃は、発達障害のお子さんが増えていることから、うまくいくかと懸念なさる方がおいでかと思えます。教師には、なかなか辛

「手助けはできない」「自分にかき書けないのだ。」

四 自己修正 五 提出

三 修正

(書いた作文について考えたり、聴写したりする時間)

修正の授業の前に、準備作業があります。まず、作文を良く読んで、それぞれの作文の良さを見つけます。それから、全体傾向をつかみます。題材、取り組み態度、言語事項、など、前回から伸びている変化をつかみます。さらに、聴写文を決め、朗読させる優良文を選びます。では、実際の授業をどう進めるかその手順を次に述べます。

←? さり、とよとまりのある人へ
めさす。

1 総評

全体の作文を通して感じた良い点を述べます。表現の良い点、行いの良い点、考え方の良い点など、あらゆる面から長所を探して伝えます。次に少しばかり激励の言葉を添えます。そこに技能の短所を一つだけつけます。長所、短所共に一つだけです。子どもたちの心に残り、確かに身に付けさせるように絞るわけです。

2 点評

何人かの子どもを紹介する活動です。「誰さんは、何の題でこういうことを書いた。面白かったよ。」というふうで紹介していきます。多少の脚色があっても良いのです。紹介された子どもは、なるほど、自分の書きたいことは、こぎ書くと良く伝わるのだと気付くことができますから。

3 優良文の朗読

優良文の朗読を、本人にさせます。(みんなの前で読むことに抵抗がある場合は、担任が代わっても良いと思います。)優良文とは、表現の良いものではありません。子どもでなければ書けない文章、子どもらしい素直な文章を選びます。考え方、態度の良いものも、入れます。次に、先生の短評を加えます。

4 聴写

修正文の聴写をします。修正文として取り上げるのは、どのような文かという点、① 長い文でないのが良い。四百字くらいまでのが良い。
② 長所が多くて、わずかなだけ、表現上の短所があるのを選ぶ。
③ そうするのが無いときは、長所ばかりのを選ぶ。

聴写をどのようにするかというと、「先生は、口で言いながら板書します。みなさんは、耳で聞いて書くのです。」と言って書かせるのです。点評、優良文、修正文は、毎回を換えてください。これには、書くことによつて学ぶという意味もあります。

訓列をながく書くことよくわかる。

5 細評

取り上げた修正文を使って、この作文の長所を考えさせ、短所をちよつと直させます。